

## こつざい 交差点

大阪市立大学  
名誉教授

山田 優



昨年来、大震災の報道で「がれき」がキーワードの一つになっているが、法律で「がれき類」は「コンクリート破片やアスファルト混合物破片などの不要物」としており、木くず等、他の廃棄物と区別しているの、

①かわらこ小石、書き、「がれき」は「瓦礫」と

②つまらぬもの、値うちのないもの」とあることが気に入らない。「小石」は今や貴重な骨材資源であるのに、つまらぬものの代表とされている。

骨材は建設工事に不可欠なものであるが、その供給が不安な地域があ

木くずなど他の多くが混在する物に対し適切な呼び方ではない。それはさておき、私は国語辞典で

①かわらこ小石、書き、「がれき」は「瓦礫」と

②つまらぬもの、値うちのないもの」とあることが気に入らない。「小石」は今や貴重な骨材資源であるのに、つまらぬものの代表とされている。

## 総合骨材製造業の出現を願う

近畿地方もその一つで、特に砂が不足している。生コン用として中国産の砂を輸入していたが、それも禁止となり、九州産の海砂と砕砂などの人工砂に頼らざるを得なくなった。

またアスファルト合材には、細骨材の約50%に海砂を使用した。その九州産の海砂も、採取規制が強化される可能性が高いことから、このたび産学官共同研究プロジェクト「舗装用骨材資源の有効利用に関する研究」を実施した。

この研究で、天然砂不足を補う方策はリサイクルの増進、砕砂の使用、副産物の活用であると考えた。その結果、今後も舗装用骨材のリサイクルの継続は可能なこと、また砕砂の増産を促すための砕石粉の有効利用、種々の副産物の骨材としての利用も可能なことを確認できた。

ただ、今後の重要な課題として種々の骨材をどのような体制で供給するかという問題がある。骨材需要が低迷する中、骨材供給が増えるだけでは、骨材の値打ちは上がらない。種々の資源から利用者が要求する品質の骨材を製造して供給できる総合骨材製造業の出現を切望したい。